



# 長野県立子ども病院だより

No.16  
平成22年7月1日発行



## 長野県立子ども病院理念

—こどもは社会に潤いを、未来に希望を与える宝ものです—  
長野県立子ども病院は、周産期・小児の専門医療を、全人的な総合医療として提供し、未来あるこどもたちの健やかな育成を目指します。



日本医療機能評価機構  
当院は日本医療評価  
機構の認定病院です

## ご挨拶

病院長 勝山 努



皆様こんにちは。4月1日、子ども病院院長として着任しました。小児医療全体を担当する病院に関わった経験はありませんので、日々驚き、感動し、時には疑問を持ちながら仕事をしています。

「長野県立子ども病院理念」、「基本方針」、「職員の倫理要綱」など先日、患者さんのご両親から、院長は病院の「理念」、「方針」を理解しているのか、方針の内容を言えますか、との疑問を投げかけられました。皆様ご存知のように、「病院の理念」、「基本方針」、「病院職員の倫理要綱」、「患者と家族の権利憲章」、「患者と家族の責務」は、院内のいろいろな場所に掲示してあります。これらは本院で行われるすべての医療行為の基本を定めたものであり、私もここに書かれたことを旨として日々仕事をしているつもりでございました。ただ、質問された際にお答えできず、「理念と目標は絵に描いた餅ではなく、我々はその実現に向けて日々努力すべきだ」と唱えてきたものとして慙愧に堪えません。長期間病院に勤務してきて、知らず知らず患者さんの視点から離れ、傲慢になってきたのかとつくづく反省いたしました。病院職員の方々にも、「病院の理念」、「基本方針」、「患者の権利・義務」、「病院職員の倫理規定」を改めて読み直し、味わい、胸に刻むようお願いいたしましたし、研修センターでも職員の教育に改めて取り組む方針です。

当院は、長野県における小児医療の最後の砦としての役割を果たしています。今まで、長野県民の皆さまの強力なバックアップをいただいて運営されてきましたし、これからも変わらずご支援いただかなくてはなりません。そのために、病院で行われてい

る医療やそれに伴う様々な業務をより正確に、より安全に、より効率的に、より高いレベルで実施するとともに、より開かれた病院組織にしていく必要があります。独立行政法人化された本院の実績は、今後県の評価委員会により厳しくチェックされますが、患者さん、県民の方々のご意見も広く伺い、よりよい病院運営を心掛けたいと考えています。  
＜医療崩壊と独立行政法人化＞

さて、医療関係の話題、特に医療崩壊とか医療関係者の不足が報道されない日はありません。本県の県立病院も厳しい状況にあります。その理由の一つとして、県立病院が本年3月まで行政機関の一部という位置付けであり、医療職員の数も職種ごとに守るべき定数があつたことをあげることができます。職員定数はそれぞれの医療機関の医療機能をかならずしも反映したのではなく、県職員全体の定数の中での配分で決まっていた。結果的に、医療機能に比べて職員数が全体的に少なく、各職種間の定数の比率にもさまざまな歪みが生じ、また過重労働に陥りがちでした。

医療の安全を確保し、よりレベルの高い医療を実施するためには、十分な医療人を確保することが条件となります。これが一つの理由となつて、長野県は本年4月、5つの県立病院を地方独立行政法人とし、我々職員は非公務員となりました。その結果、公務員定数という頸木から解放され、医療機能を高め、医療の安全を確保するため、必要数の職員数を配置することが可能となりました。子ども病院では特に看護師、薬

### contents

ご挨拶	1
最近の治療経験から —小児外科—	2
平成21年度決算の概要	3
ファミリーハウス「たんぼぼのおうち」	4
患者さまからの声	5
セラビードッグがやってきた	5
副院長就任ご挨拶	5
外来医師担当表	6

剤師、一部の診療科医師など、いくつかの職種で著しく人材が不足しています。今までは公務員としての採用でしたので、採用方法にもさまざまな制限がありましたが、今後、テレビ、ラジオなども活用し、なんとか人材確保に努めたいと思っています。これを読まれている皆様で、こども病院で働きたいという方、ある

いは可能性のある方をご存知の方がおりましたら是非お声をかけていただければ幸いです。

最後になりましたが、県立病院は県民の皆さまの共有財産です。我々はそれをお預かりし、最善を尽くしてその運営に当たってまいります。今後とも、厳しいご意見、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



## 最近の治療経験から —小児外科—

小児外科部長 高見澤 滋

当科では、生まれつき気管が細い(全長型先天性気管狭窄症)ために呼吸困難があり、さらに右の肺が食道につながり(右主気管支食道起始症)感染症を起こす可能性のあった小児の治療を行い救命することができました。この病気は交通性気管支肺前腸奇形(CBPFM: communicating bronchopulmonary foregut malformation)と云われ、世界でもこれまでに11例しか報告がなく、気管を形成する手術と食道につながった肺を温存することができたことは、今回が初めてでした。これは当院の優れたチーム医療、新生児科、麻酔・集中治療部、心臓血管外科、小児外科の医師と看護師および臨床工学技士、リハビリテーション技術科スタッフによる集学的治療の成果と考えています。治療に関わったスタッフにあらためて感謝を申し上げます。

患者さんは、在胎37週2,356gで生まれ、呼吸障害のために同日新生児病棟(NICU)に入院となり、入院後の検査で上記疾患と判明しました(図1)。治療方法は、右の主気管支を食道から切り離して気管と吻合(気管支の端と気管の側面をつなげる)し、狭くなった気管を形成して太くする手術(スライド気管形成術)が必要でしたが、体重4キログラム未満のスライド気管形成術の成功率がきわめて低いため、体重の増加を待つ必要がありました。その一方で、体重の増加を待つ間に、食道につながっている右肺に感染を起こさないように早期に右主気管支を食道から切り離す必要がありました。そこで関係各科と連携を取り、右肺の感染を予防しながら(経鼻小腸チューブから経腸栄養を行った)しながら段階的に手術を行う方針としました。

第1段階の気道確保として、4ヵ月時に狭くなった気管を全長に渡ってバルーンで拡張し、スタイレット(気管内チューブ内に挿入する金属棒で、挿管時にチューブの形状を保つために使用される)を入れた気管内挿管チューブ(内径3mm)を左主気管支まで挿入し気道を確保しました。

5ヵ月時には右主気管支を食道から切り離し、気管に端側吻合(端と側面をつなげる)し、右肺を温存することが出来ました。

7ヵ月時に気管切開術を行いました。狭くなった気管の全長に渡って気管切開カニューレを挿入する必要があったため、長さを自由に調節できるカニューレを作成して使用しました。その後狭窄気管および気管内肉芽(傷口が治る時に盛り上がってくる肉)に対して、全身麻酔下の気管支ファイバー検査、気管バルーン拡張、肉芽切除術などを2年間で30回以上行う必要がありましたが、1歳8ヵ月時にスライド気管形成術を行い、2歳の誕生日に無事退院の運びとなりました。

現在は在宅酸素療法を行いながら摂食障害に対する経管栄養を行っています。今後は幽門形成術、胃瘻造設術を行った後に経口摂取訓練を進めていく方針です。

当科では生まれたばかりの赤ちゃんから18歳までのこどもたちの外科疾患全般(先天性疾患、単径ヘルニア、臍ヘルニア、虫垂炎など)の診療を小児外科専門医2名、小児外科専従医1名、後期研修医1名(平成22年7月から2名)で行っています。また、短期間の外科研修医を近隣の信州大学および相澤病院から受け入れています。小児の一般外科疾患でお困りのことがございましたらお気軽にご相談下さい。

患児の解剖学的模式図

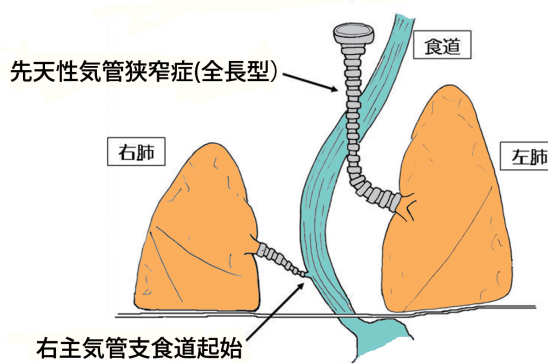


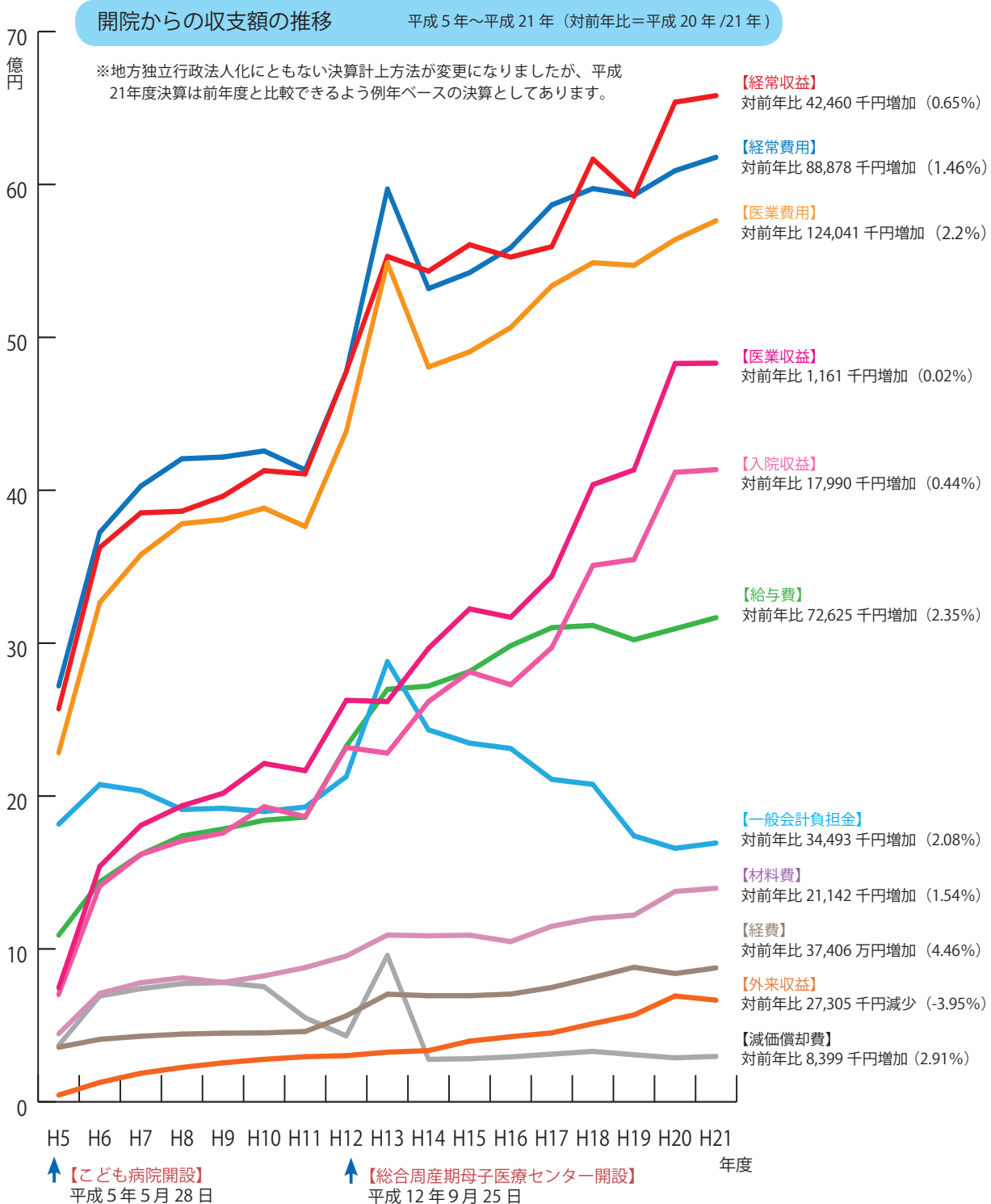
図1

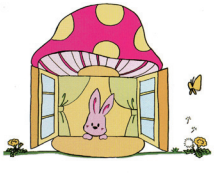
## 平成 21 年度決算の概要

患者数は入院・外来ともに減少し、前年に比べて約 3,100 人減の約 10 万 2 千人となりました。

医業収益は、患者数の減少や院外処方箋の増加による拮抗はあるものの、結果として手術件数増加によりほぼ前年並みの 48 億 3 千万円となりました。医業費用は、患者数の減少もありましたが、手術件数の増加による医療材料等が増える中、経費の削減を進めることで前年を約 2% 上回る 57 億 6 千万円となりました。医業外収益に含まれる一般会計負担金は、経営改革運営経費の増加等により前年を 2% 上回る 16 億 9 千 2 百万円でした。

その結果、経常収益（医業収益と医業外収益の合計）は、前年度を 4 千万円上回る 65 億 8 千万円となり、経常費用（医業費用と医業外費用の合計）も前年度を 8 千 8 百万円上回る 61 億 7 千 8 百万円で、収支差は 4 億円プラスの 2 年連続の大幅な増益となりました。





## ファミリーハウス「たんぼぼのおうち」

特定非営利活動法人あづみのファミリーハウス  
代表理事 上條孝子

1993年9月に当時4歳の一人娘の沙耶加がこども病院に入院し、中学1年生の男の子2人と同室でした。当然中学生ですから親の付き添いは出来ませんでしたので、お母さんは長野市から毎日高速を使い面会に通っていらっしゃいました。ある時、交通費だけで1ヶ月間に10万円以上かかるという話を聞き、自宅が遠いという理由だけで多額の経済的な負担があり、また通うことによる肉体的な負担があることを初めて知りました。当時は“疲れた時くらい泊まれるところがあればいいのに”と漠然と思うだけでしたが、後に転院した県外の病院では遠方からの入院患者家族のために家電付きマンションの紹介をしてくれました。当時この病院ではファミリーハウスの実現に向け準備をしているところでしたが、遠方から患者が来院する病院には絶対に必要な施設だと思ったのが、後にこども病院における患者家族の滞在施設の必要性と可能性を模索するきっかけとなりました。

1999年2月には東京の任意団体「ファミリーハウス」のご協力によりこども病院においてシンポジウムを開催、翌3月に任意団体あづみのファミリーハウスを設立し、病院から1.5km程の場所に豊科町より旧教職員住宅を賃借し「はなみずき」として運用を開始したのがこども病院におけるファミリーハウスの始まりです。その後2001年度の県予算で病院敷地内に滞在施設の建設が決定し、県と病院・あづみのファミリーハウスの3者の協働事業として設計から係わらせいただき、2002年4月に念願の「たんぼぼのおうち」がオー

ンしました。それに合わせ任意団体あづみのファミリーハウスはNPO法人あづみのファミリーハウスに組織替えを行い現在に至っています。

現在「たんぼぼのおうち」は、ボランティアさんによる利用者様へのご案内やハウス整備、地元のボランティアさんによる月1回の掃除が行われています。また、秋には病院の職員の皆様のご協力のもと大掃除を行うことで施設をきれいに保っています。おかげ様でオープンから8年が経過しているにも関わらず利用者様からは「綺麗で快適でした」「安らげました」等の声が多く寄せられています。

「たんぼぼのおうち」はご家族が宿泊されますが、ホテルやワンルームマンションとは違います。各部屋にはキッチンはありません共用のキッチンです。これは他のご家族と係わることにより、大変なのは自分だけでないということを知っていただきたいという思いからです。また利用者様には使用後は次の方のために清掃をお願いしておりますが、皆様に快適にご利用して頂くためには日々のボランティアさんによるハウス整備等が必要です。しかし現状はマンパワー不足により毎日入れません。会では月に数回2時間程度お手伝いをして頂ける方を探しています。ぜひあなたの時間を少し分けていただけませんか？よろしくお願ひします。



ファミリーハウスの大掃除

### たんぼぼのおうちボランティア募集

ハウスボランティアさんを募集しています。

月曜日から金曜日の午後1時から3時位までの2時間程度、月数回お手伝いして頂ける方を募集しています。

内容：利用者様への施設利用のご案内。共用部分及び空き部屋の清掃、備品の補充等

連絡先：NPO法人あづみのファミリーハウス 090-5435-8248

手術を控え、先生から麻酔の話聞いて「好きなもの食べてがんばろうな」と言われ、ガムを噛んでいたところ、看護師さんにかかなりの勢いで怒られとても怖かったです。飲食物の持ち込みは禁止ですが、子どもを励ますためにひとつあげただけなのに…。もう少し臨機応変な対応も必要ではないでしょうか。

看護師の態度に怖い思いをさせてしまい申し訳ありませんでした。

麻酔科との話を聞いていない状況で、その場面だけで注意したものと思います。説明をどのように受けたか聞くなど心がけるよう指導してまいります。ただ、持ち込んだ飲食物を小さな子どもさんが手術前に食べてしまい、予定した手術が出来なかったことがあり、また病棟ルールが守られるようにするためにはその場で注意するという必要かと思えます。臨機応変な対応は、ベテラン看護師でもなかなか難しいものですが、できるだけ安全、かつ気持ちの良い療養生活となるよう看護師一同努めてまいります。



## セラピードッグがやってきた！

6月22日火曜日、梅空のもと雨で中止という心配もありましたが、当日は、曇り空の隙間から時折のぞく青空のまぶしさとさわやかな風が吹く日となりました。当日、朝7時に山梨を出発され、こども病院近くの自動車道PAで休息を兼ねて時間調整をされたそうです。年に2～3回訪問して下さり、昨年は新型インフルの関係で中止となりましたが、今年はセラピードッグ6頭と山梨セラピードッグクラブ会員11人の皆さんが訪問して下さいました。院内学級の生徒さんや産科の患者さん、外来に見えた患者さんら延べ100人以上がセラピードッグに癒されました。病室から出ることができない患者さんのために、病室の窓枠に足をかけてご挨拶、はては輪くぐりの訓練も見せていただき、大きな歓声があがっていました。



こども達や患者さんに元気を与えに来てくださったのに、反対に元気ももらったという会員の方の言葉が印象的でした。暑い中、長い道のりを車で駆けつけてくれたセラピードッグのワンちゃん達とクラブ会員の皆様に感謝いたします。



## 副院長就任のご挨拶

原田順和



去る4月1日付けで、副病院長を拝命いたしました。17年前の平成5年4月に心臓血管外科部長として着任して以来、当院で循環器グループの一員として仕事をしてきましたが、これからは、少し軸足を移して病院全体の運営ということに重きを置かなければと思っております。ご存知のようにこの4月からこども病院は独立法人化され、大海原に船出をしました。今までのような護送船団方式での運営から切り替え、船長である院長を助け、乗組員である病院の職員の方々々と協働して、こども病院丸を正しい方向に舵取りができるよう精進するつもりです。こども病院開院当初は長野県の出生数は年間2万人を越えていましたが、現在は1万8千人を割り込んでいます。少子化の波がこども病院にも押し寄せています。時代の変化に対応しながら、難しい舵取りの一翼を担う所存でありますので、皆様方のご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。

ご寄付ありがとうございます

“患者さま・病院に”と多くの方々からいただきました。感謝をこめてご芳名を掲載させていただきます。

コーラルファンド 瀬戸長義様  
日本バーテンダー協会長野支部様

日本生命労働組合松本支部様  
長野県理容組合青年部様

(2010年3月より)

長野県立こども病院 外来医師担当表 平成22年7月1日現在

外来名		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
南棟 外来	整形外科	藤岡文夫 (AM)	(手術日)	藤岡文夫 (AM) (PM装具) 加藤博之 (非)※1		藤岡文夫	
	小児外科	好沢 克 (AM) 高見澤 滋 (PM)	高見澤 滋 (AM) 皮膚・排泄ケア外来 (15:30~)		町田水穂 (AM) 好沢 克 (PM)	町田水穂 (AM)	
	眼科	非常勤※2			北原 博 (非7/1)	北澤憲孝 (非)AM	
	総合 診療 部	総合診療	川合 博 (AM) 平林耕一 (PM)	石井栄三郎 (AM) QOL (1・3・5 PM)	川合 博 (AM) 高山和生 (PM)	竹内浩一	石井栄三郎 (AM)
		内分泌		竹内浩一			
		血液・免疫	石井栄三郎	南雲治夫	石井栄三郎	平林耕一	南雲治夫 (AM)
循環器小児科	原田順和 坂本貴彦 (AM)	安河内 聰 瀧間浄宏		坂本貴彦 (AM)	安河内 聰 松井彦郎 井上奈緒 (PM)	瀧間浄宏 松井彦郎	
北棟 外来	脳神経外科	重田裕明 宮入洋祐 (PM)	重田裕明		重田裕明 宮入洋祐 (PM)		
	泌尿器科		西澤秀治 (非)※3 信大医師 (AM) 山本知子 (AM)				
	小児外科					高見澤 滋 (胃瘻・ 中心静脈栄養外来※4)	
	総合診療部 新生児フォローアップ	中村友彦 (AM)	小久保雅代	廣間武彦	廣間武彦 (AM)	小久保雅代	
	形成外科	野口昌彦 柴田佳奈 (AM) 藤田・池上 ※5		野口昌彦 紫田佳奈 杠・近藤・池上 ※6	野口昌彦 (レザ-PM)	野口昌彦 (PM) 池上みのり (PM) 柴田佳奈 (PM)	
	麻酔・集中治療科	大畑 淳 (AM)					
	総合診療部 予防接種外来(第2・4)		石井栄三郎 (PM)				
	皮膚科			芦田敦子 (非AM)			
	神経小児科	平林伸一	平林伸一 平野 悟	笛木 昇 平林伸一 (PM)	平野 悟 (PM)	平林伸一 平野 悟	
	精神科 こころの診療科				原田 謙 (非PM)※7		
	遺伝科	古庄知己 (PM)				川目 裕 (非)※8	
	耳鼻いんこう科		信大医師 (非PM)※9				
	循環器科 胎児心臓外来		松井彦郎 (PM)		瀧間浄宏 (PM)	安河内 聰 (AM)	
	産科	高木紀美代 菊池昭彦 (PM)	高木紀美代 堀越嗣博	菊池昭彦 高木紀美代	堀越嗣博 菊池昭彦 (PM)	菊池昭彦 高木紀美代	
	リハビリテーション科	笛木 昇 原田由紀子 (非)	笛木 昇 (PM) (摂食嚥下外来)		平林伸一 (AM)	笛木 昇 (AM装具) 平野 悟 (AM) 原田由紀子 (非) 河野千夏 (PM)	

※1 整形外科の加藤医師は隔月第3水曜日のみ診察となります

(非)・・・非常勤医師

※2 7/5・12、8/2・16、9/6・27 の診察日となります

※3 第1・5週 西澤医師、第2・4週 信大医師、第3週 山本医師の診察日となります。西澤医師の1・3・5週の午後は皮膚・排泄ケア外来となります

※4 第2・4週は午前・午後、第1・3・5週は午後のみ診察となります

※5 第1週午後は藤田医師、第2~5週は池上医師の診察となります

※6 第3週午後は杠医師、7/23近藤医師、それ以外は池上医師の診察となります。

※7 精神科(こころの診療科)外来の初診を受けるには、予め総合診療外来または神経科外来の受診が必要となります

※8 7/2・16、8/13、9/21・24 午前11時からの診察となります。

※9 第1・3・5週午後は岩崎医師、第2・4回は出浦医師の診察となります

予約専用電話  
0263-73-5300

予約受付時間:  
8時30分~17時15分 月曜日~金曜日  
(土・日曜日、祝祭日、年末年始を除く)

★診察時間:午前9時~午後4時 休診日:土・日曜日、祝祭日、年末年始

★受診には、原則として予約が必要です。また、初診時には保険医療機関からの紹介状が必要です。